

令和8年度

昼間小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、様々な活動を通して、児童の思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業の実践
- ②協働的学びの充実における深い学びの実現

校長

木村栄治

学力向上推進員

向井大輔

【各校の取組状況の把握について】

中間期と年度末に担任が取組み状況について報告し、学力向上検討委員会において検討し、見直しを図る。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自己解決学習や集団での学び合いに価値を感じている児童が多い。 ●漢字を正しく使う力や、文章から必要な情報を正しく読み取る力の定着が不十分である。	基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、文章から必要な情報を正しく読み取ることができる。	・ドリル学習や1人1台端末を活用した学習の充実を行い、繰り返し取り組む。 ・金曜日の読書の時間や、授業中に読書の時間を設定し、文章や言葉に触れる機会を増やす。 ・定期的に、到達度がわかる小テスト（漢字5問や計算5問など）を実施し、現在定着している知識・技能を振り返る時間を設ける。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えやその理由を発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる児童が多い。 ●書くことや読むことの力が十分でない児童が多く、獲得した知識を読解や表現に結び付ける面に弱さがある。	情報を正しく読み取り、それをもとに自分の考えをもつことができ、適切な言語活動により伝えることができる。	・条件や目的を教師側が明確に提示し、児童が考えをまとめたり文章を読んだりする活動を設定する。 ・思考ツールやAIを活用して、自分の考えを整理したりまとめたりする活動を設定する。 ・思考ツールの活用方法や情報の捉え方を段階的に指導し、正しく情報を読み取る力へつなげていく。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、ICTを活用した学習への意欲が大変高く、前向きな意識をもっている。 ●アンケート調査では読書活動に対して否定的な意見が多く見られ、読書離れ場が進む傾向にある。 ●自立的な学習時間の確保や課題設定など、計画立てて学びを進めていく力が十分でない。	・読書を通して知見を広げたり語彙を増やしたりすることで、読書を自己形成の一部として捉えることができるようにする。 ・自分の学習状況を振り返り、目標に応じた課題の設定と見直しをもつことができるようにする。	・振り返りの充実や統一した学びのモデルを提示し、学び方を定着させる。 ・学年の実態に応じた自主学習の方法を提示し学習に取り組むことができるようにする。 ・月1回全校で取り組む「本を読むデー」を設定し、家庭読書の習慣付けを促す。			